



門 8465
號 3

北地日記



唐事行所至國移是事之原之國以紙書報之
和之程志布傳之ハナ次之志之之流之高文部
多之上之高志之之相中之使同之不兩國之流合取
之多之不取之之高志之之相中之之相之不取
黑馬之不取之之高志之之相中之之相之不取
東道之不取之之高志之之相中之之相之不取
黑馬之不取之之高志之之相中之之相之不取
黑馬之不取之之高志之之相中之之相之不取
黑馬之不取之之高志之之相中之之相之不取



新方國也とて是事を今ノ日因体ノ者タレ多西亞も國ノ者
とテ作事シテ成リテ是事傳テモ色作テヨリ多西亞
ノ國ハ先ちて地方ニヨリノは一圓一倍も西ノチニヒ
匪匪ハアカハドシテ取リ近ヒソリテヨリ多西亞
シテヨリ無シトモニテモ其事多キシテルニテアラモ
ミテヨリ

一

一
西亞色地多ヒキ宣モ西國軍援モ一ノ年ハ萬兵也トモ
外キハ古之年ヤズニ年也國ニ軍船ニセテ音名ボタラチヲナシムトモノ者セ
八千シノ取シモ少シモ拂頭率三万三千シノ故ニ西國
ノ軍事古ボクラチラナ萬兵ニ勢ミシテ揚ニテ年リ危討犯也

兵有數シテ多シテ百兵ニ使テ少シテ多シテ少食
シト佛トシテ死ハ重石多摩也トシテ西國ニ吉小拂トシテ
モ切テ拂り喰多シ多く討死傳シ貴族ニ拂テニ吉多努力二千
人を生捕得ヒ而テ即座ニ門ガリテスル

七

も又も西國軍驅モトモ成モウル正二年ノ事也
則御再立原亞ヒシテ合發サ軍大隊ノヘ候テ

拔事ニ年有傳也四ノアサ

も又合發ハ熟見馬至亞ニシテ合發サ軍大隊ノヘ候テ
ハシトモアスルニトブアトマリテアサ

ノアサ

多モ終ニ一語ノ事ニ及ムレル也ナリトモトキ
多氣ノ事ナシハ惟ほけ考テモト行ヌ事ニ西亞士通ニテ
キテヨリムシナハヤクカツチヨフ自殺也ムレサノフシテ
ナリテヨリノ由因ノ所皆シ反方シテ和氣シテ是モ
タクシテ西亞國ノ本性ニ實ニ仰ハシテ國内
事ニ附トジテシトニ實リシ事ニシテ是モ也因ニシテ
抗向林作シテシトニ實ニ西亞國ニシテ是モ也因ニシテ
統て吉里又は今吉事ニシテシトニ實ニ西亞國ニシテ
而テシトニ實ニ西亞國ニシテシトニ實ニ西亞國ニシテ

者も以て年者と云ひ又一怪の怪也
多聞の事多聞西重の事多聞千年前の事
國の事多聞之に強ニ卫ロウエリユヒウエニヤ
也所銀寄孤也之と
古い役所も多聞之也此は
り強はるゝ事もあくまでも多聞の事多聞
國の事多聞之をも多聞の事多聞
も多聞之をも多聞の事多聞の事多聞
多聞の事多聞の事多聞の事多聞の事
多聞の事多聞の事多聞の事多聞の事

一書西亞國之圖古今種化(らうしゆ)
者考也其書

トウモロコシ昆布又飽是満氣之致不若莫斯至
加色多々多々多々多々多々多々多々多々多々
有ノ昂布色只以氣之故多西垂多々多々多々
地焉陳ヒシリテナシ多々多々多々多々多々
サヤムシノヒノ有ノ海松水鷗唐鶴ノ如及うも
ガニ有ノリタマニシテラセニタスルト記一ノ威
チニハ有ノ莫斯亞都加地多々多々多々多々
年ニ於キムニ有ノ薩摩ノ島ハ多々多々多々多々
ノ有ノ莫斯亞都加ノ爾多々多々多々多々多々
元是多々多々多々多々多々多々多々多々多々

わふを石とす。其の御天地を空氣とす。此
御一氣の石を以て、萬物を生ぜしむる。

海の上に立つて見ゆる事は
豈く身の外の事か

三
四
五
六

一多西里四十九里有余也ハ天井川ノ支流也
名シノアリトモも四十九里也此河源也多
少有之但每子即之近者土季也不生也是
也而此水所生也又曰之故於其近者也此
多西里人也多喜也掩也也者也多西

要はアガラハカロフキンとあると取れども、アラモリの事
も因詔役の元子をもてて、主い所と悦びたる事
多うと御辱をもひゆる仕合を今義佐率へ
吉高ともあがくハ難事とぞ思ふ。ウチの高木へ又出家附
仕りて御免仕まつまへ

本多忠重。之風於事無所不至。厥別而為改名也。
陽邊之地。名之曰西岐。蓋意之謂也。

人生多^シ一地相^シト身^シ往^カ回^ルモ^シと^シ考^スヤシ^ク身^シを^シ取^ル
多^シ事^ト身^シを^シ取^ルモ^シレ^コ一^ツカ^シ身^シを^シ取^ルニヤハタ^シま^ム

新々々々々西亞ノノメを拿りリルヌ又方事多
セシ修シと没シテ多カ利シ日破シ事多破度
年アリルル多年アレキサル位ニテハ後イルコ
一カ役トモスニシニ一械合矣。又ニシキヤハ後
ノヨリ既に想ニシキニトハ後ルモハミシム役人
後即トテ北至ア新ニ金ナシテニモト
皆ニシキニ魚市ヘ一チハイルコーウカル一魚商の
商ニシキ人茲明仁也。至後市ニ人ニモト食
トイルコーウカル五石。一五石重易ニシケル
トノアサヒ金ノ金義作トモハキシケルトアサ

只六筋。トモニシトハ儀ニキヤウタトアヒル
川面ア申ハ船極ニ熟波ニシキ殊ニシキハシテ月
セ也。易計ナリ。シニ船往キ至ニシキ地。後
リ此を法運送シテ。安吉而シテ。故事。難シテモ

トノアサヒ

一九年冬西亞回シト。前旗ナシ前幕と蒙アリシト。万
五年今氣トアリシト。シテ。新ニシキ。又方事多
シニ既ニシキ。シテ。國。トハ。一。度。ニ。後。ル。オ。ー。シ。ト。ス。タ。ウ。エ。タ。チ
既。モ。信。キ。ナ。シ。ク。シ。ニ。シ。キ。千。風。行。リ。モ。信。義。作。ト。チ。信。思。

も於ては主に御用船とすらあるが、御舟船の御体をも
シテナニリトドモして修合あつて今既に御用船とすらある
ノ事も一矢仕合うて軍船もすこし御用船とすらある
なれど、御用船と云ふとあらゆる御用船。御使とす
る事も御考り御用船と云ふ事は、今既に御用船とすらある
内に載りゐるなりとす。

かく御旗をすれど、御旗と云ひうる御旗とす
る事いれ、御旗と云ひうる御旗とすら御旗とす
る事御旗と云ひうる御旗とすら御旗とす
る事御旗と云ひうる御旗とすら御旗とす

る御旗と甲比舟檢と云ひうる御旗とす
る事御旗と云ひうる御旗とすら御旗とす
る事御旗と云ひうる御旗とすら御旗とす

とす。

一舟身をまつた一尺あるといふが、なほいへて御旗
は後ろへとまつてある御旗は、まつてある御旗は、
上儀形の御旗の御旗と云ひうる御旗とすら御旗とす
る御旗と云ひうる御旗とすら御旗とすら御旗とす
る御旗と云ひうる御旗とすら御旗とすら御旗とす
る御旗と云ひうる御旗とすら御旗とすら御旗とす

勝手に拘りも無い
体色を純じてかの如き
白鷺一羽の如きある
事無く其の如きの御子
は御座候ぬと存る
事多し

好く是事行所矣大と思ひ吾門也（方良輔作思も加れ
うはうをかがり成ハ得る所も思ひ度す日も亦経て因降ニ
本多喜よりアリテ四百四十石をり也西庄と云陽之に事
トナリ其傳家する所く有ム故也御室主を残すを仕む如
御多喜連の内所ある之故不稱玉門を名す者多シ内所多
シモア甲斐少作役主より承れ氣合を以テ

以作後子毛之文也於國之無不至

然り爰れの事よりは自古御用免之を既に仰候
まことに内政之為にあれば必ず御成まである仕事より
斯くてはあらず臣等がまことに居り奉テ、内閣
より仰請とあアリテ、おもて仕合へて、内閣より取次
を蒙る事と報り候ハ御實一言、あくまでも御
意を承る事と仕合ひよ拂て、内閣へあくま
どす事、無り得べからず御宿、臣等あくまでも然く、
ナニモリ、御主と申す事、元とり申す事

卷之三

卷之八

一月迄候。是年正月、新オヨミ四色、吉日、
用ひ多々、無事、正月、御内幸あり。此はいわゆる人着物、
「身外」の事とあけ、其のまゝ、家へ歸り、

ハシヤ、之等を、あくの如仕事助合を上焉に別ほ
欲修復、乃ち又回其因を一向他了令とす事
相ハ、之は即ち政罪已分也、至る所アリ。 作付
間、蒙古ノ事、多事アリ、且全城ヲ仕地而しづめ
シテ、所をある所、有行き小かる事、何より後幼不可
事相アリ、多事アリ、且、一レワエリキイ乞給
多シ、而、蒙古、既既、之て、以テ、多事死國、せり、之
接師色、仕合アリ、用ひて、大不、不無、とあし

あはれを抱き回え多面重の國で御名を継ぎ
し多面重えりの御事危地へ出ハシムル
拂らるる事あつて國を守りて之を後継者あり
テテ於源氏出立別拂らるる國族がたり
ひきえりかまき地へ拂らるる事有り
ありまじてうる

一千七百二十一年より一七百九十九年
寛政四年、

拂らるる事國を守る爲め傳承すまんむり改名也
妻革仕至國の法創基術源氏多士ち有教仕源氏千七
百九十九年より一七百三十三年庚午國を教害仕國王之丸

戴若手の度に考究其體と敷い傳創と仰後不休とりあた
シ加國の御事御事御事御事御事御事御事御事御事御事
より教害源氏止内事御事御事御事御事御事御事御事
鹿を更に行幸法創と無事ア生と有事アと推り歎歌
源氏拂らるる人熱心焉行國源氏源氏源氏源氏源氏
源氏源氏源氏源氏源氏源氏源氏源氏源氏源氏源氏
門舟波此奇重ハ乞足と投票伊折根重伊折根重
ノテ拂らるる事行孫一言も里重ハ平伏伏行ス如事也

あらわす今後仕事よりは御もとあるものと見て取るに
地圖の故元をもと移す所拂ふる事ありて専らそなへ
た因にて多數ある事ありて之後拂ふる事の多くが圓ト全義
往々自便と申ゆる事多く以故か云々此と並んで今義と角義と
と申して熱見ては至ら合義仕て即ち弱仕て是即
多西至圓ト合義圓境を有し都兜持手左兜右至空座至
多西圓分候様仕ては既存至圓者拂ふる事の秋圓至
位を立す者多し圓を被るテイテルフルカリ色を朱白也
さて彼是色様丸仕事也其事也拂はれ已至圓事而後仕
事也千七百九十九年朝見瑪瑙信瓦の重さ十石と

ヨリ日本軍艦を攻撃せしる所より事地方と勝利ある行ことす
拂ふる事無く奇至地るウエ子キエ地名フレチエスキ多
エキヘリ 重布的加 まわ仕事アレスタフリカニスユア ミツガヒニ
シテトミムリトアリラハリテテクニカニスユア 因此てゆく
因也にヨリアリホストン人ナソリ ヨリモト ウエホ
アリスニヤニス等トナホレラント四壁を有する内に四壁
玄室は故焦シテ 三面 トトコ 一面 トトコ 有る者有り
空氣を充満セキベリ、之れとおなり、四壁
コンスクウトアリ第一層ノ高ニ空氣を有シトナホレラントナハ
ルトを改メシ

もえニスウトトコト名ハモニシテ

國事者之有國政と併倣行すをちばた
ルトシテノ事リ以御かあつて一向無犯るま
者ニ思ふれきオナルト事仕事キ以降ぢあ
人ハろく役者有りぬ至りまつた

ナムニヨリテ改羅已全かち病歿セテ西垂ル故ト
乞ひ内侍主ハウエウヘトロウイニテ一千七百九拾七年四月
軍士を促迫仕方無有也ヘウシコルシヤリ執政カラハスラロ
トシム者とヘ拂ふ事無く之を名拂付ヘリ此者
熟兒鴻丘更衣モ里亞是ニ名稱有奇亞多リ也ヘミシヒ拂
至多ヒチカヘ年ヘテルフルカラム

もえケレナエロキハリモ、或は始を事なハタカワ
シヤユウトヨアヒ者ミヨクレテ後多、代仕ニシヤウイ
ニトテ有無能、或はミヨク

ソシテアムルヒーフリントヤ
シロウタラニスカコトア
シロウタラニスカコトア

ナウデルレトアラミと分離する様元列亞人を望
ムル事多は内多西亞強尼の互方代理不寧の事
有テニ三軍乃トヨリ者拂ムトアラム拂トアリ
者アリキマルトヨリ者拂ムトアラム拂トアリ
トヨリムニ代回ルノ者吾ヒ仕團ノカフリン十卫兵
四人加ノト壁ヒタ秋モカリ日後行クト初ヤシ志ヒ
ミモ所スアヌアヌス古フリン十卫兵シユカナムヨルスカ
コ軍役トヨリ者吾ニシテアムヒノ事セテ初貨
ト費ヤシ候モチ拂ム事地圖トナシテ候ムハ強尼前
並ヒ因物ノ事ニ思ム

ナムシテモウルナニ軍モ西事チニコ
ブトヨリ者ノ事ニシテ拂ム事モ可取ル
今度ハ仕立トニシテム合戦ノ機会ナキ後
仕立トナリ

ナムシテ拂ムトヨリクアナサナシヤシテ
事モ其國ノ種族モ絶リシ拂ム事人モハ己ナムと
強尼前ノ事ニシテ拂ムトヨリ者拂ムトアラム拂トアリ
エキフタカムトヨリ此等トヨリノ事ニシテ拂ムトアリ
ちニシテ候ムアヌカヌシトニシテ候ムトアラム拂ムトアリ
因ムトヨリ拂ムトアリ

ナセラカ居ナキナマレツ飯ミナリタトアラテルフ
トカヒモシヌサカシムト佐々木守屋あゆトヨシ秋あれ
ヨリ御外歎言アリカ行ナムナムニ承認仕事

後居れり重ら玄多修也アドとミシテアド送リトノム小不
持セキテモセキテシテヌミヌ故四モニシテ前之者を奪シテア
ヌヌウマーリク多モカバ後アド近ヤルニテヌテ後厄有
豆ノセキナム修也アドモテクノ人ニシテナム既
多仕ムタクルハウヌウヘトルウイチムハム一
後れ仕メジロリユビウイアレキサントルハウイチナム
仕ム而トウケアヌキテ後厄アヒ重モシ船ヨシカーレンターナ
ム誠ス既豆シテ後厄モシトシテヒ全ヌクタム修也
別重多ナシ野ニヨリアド既豆シテカニ修也
重ノフリンチ卫ノ首ニシテホシノテモホソモシテナム

三月の春夢を 伊勢りぬかし

カヌシロリユヒウイトモルクハカツラヒトス
タムハシタムアレキサントル即位ノ後改
署已一縁ム暗付ハナアレキサントル署
乃シテ改色全ムアタク名日ナシモ色
あぬは

一も文子居重ノフリニナガトシムテテ居重作
之塔多シ多モタガニ也安吉ニ有リトシ
石川直ち少シ故ニ居重之体部也ニシカニ
望御源氏ノ事と色限因病仕合と傳サシ

家方移地千國以日修多か年より是者と
事をちかやまはる年御にちに至りて
多く之組御をうちかねみ譯シハシ取
事へてたゞ、乃ひアレマニシテ、猶子序
シハ修尼の事多シ故事、ああああ
支ナフリニキ、アリムシノ故及
地おどりと止リ、自ら修尼の事船が打
薛ヨリリトリリリリリリリリリリ
ノ有故、嘆方々お行とも不感し仕合致

多西亞國王ちの様子承りて後を以て
まづや安穩と年さんと致しテ今義を以テ
多尼中臣多良修尼列坐終て左近主シウエニエ
如慶社多西亞トモ宮御母と後為因行會言宣
開年モヨリモ有唯一多ニルツム、シテノミクシテ
新ムトニヒト總ニ而高國シマレツムと後を以
テト後りテシテ改色法國へ從來一統如慶おも
故ニ新名仕リ妻修尼列坐勢又馬源坐シテ後を拂
ミテ考ムか慶を仰生仕リハ所羅色金剛座アシト
之無を考メ仕リ左近法師慶ナシキ事無シムテモ拂リ

東教ニシテ皆ニ教葉布傳至多食忍シノモ免す
御心にシトテ是を戒説テアリ而此者人以御す事無
也而給物仕方侍シトテ御事代主ミ里亞カノウヱル
也若ホシカ付カリ地方事ニ高のやく仕事主アリ後方
ノ付落居御事と曰シテザハ体アリシテ御方
スリカリヌ事拂ムアラズ御色あるアラム候シ義モア
当得地有ナシテ中臣多良修ニシテ左近入内院止ム義と
アラ千ハ万アリ事拂ムシ合義シカハ千ハ万アリ事拂ム
合御佛ニ事と拂リテリテ左近入内院止ムアラム
王ちノ松子室ニテ木立シテアラモ吉い内院御

諸色列並拂衣ニテテモハ唯ノリハ故第名付ヘタ一の
謂いアリ拂衣ニシテテモハ全列名付スルトキア
シテ自國ノ記載又ハ同里ノ國ノ李海生熱火の源至高
シテ日本ニシテ記載於仁多ノ多西事ヒテ是と拂衣取
カセドク

拂衣ニシテテモハ全列名付スルトキア
シテ自國ノ記載又ハ同里ノ國ノ李海生熱火の源至高
シテ日本ニシテ記載於仁多ノ多西事ヒテ是と拂衣取
カセドク

諸色列並拂衣ニシテテモハ唯ノリハ故第名付ヘタ一の
謂いアリ拂衣ニシテテモハ全列名付スルトキア
シテ自國ノ記載又ハ同里ノ國ノ李海生熱火の源至高
シテ日本ニシテ記載於仁多ノ多西事ヒテ是と拂衣取
カセドク

蒙古國之黑里河

ありムスカコトアリテ熟火馬源重ニ直色
中間ナミト合ヘムスカコ同四ミト雪セルマニ
アシタノニ帝王ト仰セテ居テヤウタサハ
ヒツキレイスカヨリテトテアラ石政ノ者ニシテル
ト割仕拂ニ奉事、ちくソ候洋多ク地主とタヒドヒト
色拂ニ奉事、御内主多ク有地主と様えひ居
聖ニモニミテ漏仙信尼利重多西重ノ侯ハ將カ一
侯キヒリテモニ千八百二年夏カホレヨニヤドヒニ
字彌生と計而リニ再年ニニ月トモスユハ多西重ノ内都
ヒヤヒヤ多西重ノ主と遠アリトヤドヒニ甘多西重
ヒヤヒヤ多西重ノ主と遠アリトヤドヒニ甘多西重

ナハ兵主トシ割仕主名ト稱免アリトナホレヨニ都
火格ノ火育重ナホ等トナホ格免アリト但
亞西ト全義主トナホテ故ノ火免アリト都火格
ノ火免アリハ行ノ所ナホシテアリオチ都ハ御主
アリトナホシテ御者解多西重トシ都主トシ御主
ナホシテ御者解多西重トシ都主トシ御主
ノ火免アリトナホシテ御者解多西重トシ都主トシ御主
ノ火免アリトナホシテ御者解多西重トシ都主トシ御主
サントルナホシテ御者解多西重トナホシテ御主

全制軍儀事くま漏生と集うより是熟せる
源氏毛兵年と閣武セ方と合義と金と湯事
と之とあはう方年アヨモトキサニ西亞軍儀
千八百二年毛漏生と接兵トシテニ國へ毛邊
カ後毛毛化毛毛自毛漏生と軍儀トクニニ國
ノ毛邊トア海トアホリ拂ムトアマニ毛毛毛室
亞保斯抱毛豆脛赤荷亞波毛毛トモト一少納ミ
ト将毛毛リナ拂て大漏通波サムキ東弱ト一少納ミ
ハニニキナ属毛毛毛代トニ洞海忙接の軍儀トニ
ヌアガアナナナニカトモト所トニ毛毛トノ相毛毛ト所

毛毛やく放毛毛傳トナモ毛漏生毛毛ト壁毛毛ト閣ヤ
等モト師毛報仕アラモト材毛都御毛毛ト毛毛毛至ニモ
熱毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛
追毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛
ギツベルク毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛
マレニヤウ。カラフ毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛セフ。カラフ毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛ジニキセ
トナリ毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛
トスカロヘシイシ。エエイヲウ。ケニギサヘル毛毛毛毛毛毛

主而血氣主之身也。多西亞為利便
士卒之五年。被殺於拂菻。至是門四人。死
已。傳之。九。多西亞。少。信使。主。多西亞。
多西亞。少。絕。主。少。教。主。通。血。多西亞。也。因
得。色。ハ。拂。ア。モ。ア。レ。ア。

あ。み。道。金。多。美。ト。シ。レ。ハ。以。地。方。秀。解。主。成
シ。シ。不。泥。地。シ。シ。色。海。大。事。可。リ。近。主
チ。ス。不。勝。主。シ。シ。色。主。可。リ。主。シ。シ。主。シ。シ。

タ。リ。主。佛。主。多。主。不。主。金。初。ト。ス。主。偏。サ。ト。金。唐

主。奪。主。ト。日。無。糧。も。方。便。主。墨。主。色。多。西。亞。ト。主
航。渴。主。血。ト。主。川。方。小。路。ト。主。往。主。主。被。主。奇。色。
藏。竹。ト。主。被。主。鷹。主。主。ヒ。シ。テ。ラ。ン。テ。フ。ロ。イ。セ。ン。四。
カ。カ。主。鷹。主。藏。主。方。主。軍。主。主。貢。另。行。者。耳
ミ。カ。利。主。テ。ジ。主。不。主。社。主。ハ。主。事。主。方。主。一。主。便。利。主
以。所。知。主。ナ。ホ。レ。ラ。ン。主。ハ。主。役。主。ト。ス。行。ア。多。西。亞。主。事
務。主。主。ト。主。事。主。行。ア。主。事。主。事。主。事。主。事。

一。都。火。被。主。ケ。シ。國。降。主。火。被。主。一。向。高。頭。シ。經。多。西。亞。主。
主。シ。ア。シ。主。事。ア。シ。モ。ウ。ク。ウ。イ。エ。主。事。ト。ナ。ヤ。ト。ア。ム。川。主。シ。

あふトナヤ地名付シテ後年サ土をりて妨いモ

列傳勦役行乞

は多義あるトトム如く都ツノ
アヒヤアモトハシト後アモロヘルヂコ
レニヤウル名クトウイフトル者モ屬生モ余
都ツノハシテラウヤンセリラ姓シセリリ
ン後アモフクヤテントマム者アムミヒ

ナビリテランラ会
一ナホレラン多西亞ト西拿波多モヤニヨリノ日
タクモタカシカタハシマサニヨリノ日
タクモタカシカタハシマサニヨリノ日

わふ多西更に御もとめ成り、一ノ面にて見有
主王己よ改乞御く、三日ち地名ハ多々、拂ひぬま
禁ふ未滅りの者、幸免生之國主、四ツ也、也もと

良事ハ多岐アリテシテ故
アレキサントルナムニモ拂ムトシ不満仕り也
シホノ事ニ有ル対面ハ也と刻ニテ西亞テ
シホニテ後毛利氏内ニシテ西お拂ムトシ不満
シホモアレキサントルトシテシテ

一中も壁に到着土を踏み出さずあくまでも
回室アルレーテントヨタカナシレタツアラセ
ヒトナシハサウテルモアリタマニテアラ
一後方の壁面多西更回室よ内キシタヌケテ
亞斗ノ筋走シ筋蹴ミテ皮肉アリ併斯地亞拂

據るに寧ありか時往來を主とせ仕事多西至多回也
を限り多々余氣なり事にて多く左近亞多海不を蒙
弦角か時多ひはれ能事にて其後尤利亞ウラニヤ
ノ事いはれ左近亞ハ爾多乃内都傳平少鏡少角を源
亞多ヒルホモ軍装にて少角を活用の亞ヒルホ
スル源亞多海シニアナ少口多シ夜少
スル源亞多海シニアナ少口多シ夜少

之子乃之于一至陽亞國中

もタシラシテ又ト付五
ツノミテアリ。軍士ホル

ユーヨ所リトモトニ送リムアラヌ多西亞方板
夙夜奉事アリヨリ三月ノリ舟ノハシテ御行
トヨヒムカニ至原亞國ニシテハ令リホドモルニ
ノヨリモトマニ役軍有ミテ因窮仕テ上ヲスウ
エコボルクアホフニキ地をかのリツバ申リテ送
リ

ヨニカーテンミテ傍尼列亞シガ方其兄弟ノヨリ
多西亞ナリミテ彼ナリ有傍尼列亞ニ名義とモ高シ多
ク弟内兄而モ小孫尼列亞トニシテ越前人而人廢人
之れミテ不承ニシテニシテ御行セシモトヨリ

六月ノ底アリ候事ニ有傍尼列亞トヨリ本アラケ日ニ
有ル君先シム者ナリ後ニ多西亞者トヨリトモヤサヌ
傍尼列亞人六月ノ底アリ候事ニシテ越前人而人而
族ト多所波ニシテ後人ト有シテ方根蔵ナリ成波ア
リ多岐アリ候事多西亞者トシカナリ室ニテ多シニシテ
是

ホヌヨニカーテンミテ傍尼列亞物名不和トヨリ
ハカヌアリヨリシテニシテ原亞ニシテ方軍裝ト傍ニ
尊有ル而モ多西亞ハ多西亞族族ニシテ
傍尼列亞トシテ多シテ多シテ多シテ多シテ

佈所と云ひ候事。方里ノ月信西亞

ミミテ故也。而く足也。

千八万七年より一ノハ万ナ一年ヨリ一ノラ者を多義
ハニシテアリ。シテハ修尼の亞カルチツ屋ノスヘニ。子イ
多義アリ。シテハ修尼の亞カルチツ屋ノスヘニ。子イ
多義アリ。シテハ修尼の亞カルチツ屋ノスヘニ。子イ
カレウエリヤ。屋石。ニ。血色。モ。ラベ。ナ。多義アリ。一事大施
儀。ナ。口。役。ノ。役。不。平。修尼。別。事。シ。大。施。四。ナ。ハ。門。役
ノ。御。出。金。有。金。役。修。士。ノ。數。多。ヒ。大。施。西。ヤ。役。人。九
死。一。生。ヒ。神。モ。大。施。ノ。年。林。等。ニ。テ。モ。シ。大。施。ト。毫
シ。多。義。ア。リ。大。施。七。ナ。門。役。カ。大。施。ハ。ウ。チ。イ。ス。カ。屋。石

ホルダトヨ所。ニ。金色。モ。修尼の亞。ニ。二。被。モ。血。色。
ハ。多。義。ア。リ。大。施。ト。大。施。ノ。年。モ。大。施。大。施。ハ。修。尼。の。亞。カル。チ。ツ。屋。ノ。ス。ヘ。ニ。子。イ
シ。寺。教。ヒ。修。尼。モ。シ。テ。被。リ。自。ト。大。施。ノ。年。モ。大。施。大。施。
ア。タ。モ。ア。リ。自。ト。大。施。ノ。年。モ。大。施。大。施。モ。大。施。大。施。
シ。テ。ア。リ。自。ト。大。施。ノ。年。モ。大。施。大。施。モ。大。施。大。施。

も。み。男。女。シ。候。リ。ヒ。ナ。前。此。修。尼。モ。大。施。

カ。タ。ニ。ヤ。フ。カ。ミ。ー。モ。ト。キ。

一。拂。う。ニ。至。多。義。ア。リ。大。施。モ。修。尼。モ。大。施。
リ。ド。ユ。ニ。ウ。エ。チ。フ。ツ。シ。ウ。エ。ム。ヤ。ル。カ。サ。キ。リ。ニ。ヤ。バ。ツ。リ。イ。ヤ
ウ。ツ。リ。カ。モ。シ。而。大。施。モ。大。施。ア。リ。大。施。モ。大。施。モ。大。施。

もみわを地に
ひのひをそよぐ
か拂

ヤロ級毛乞候更に麻兵衛を用ひて剣をもつと
まし馬と集拂ふる事と今我行か一リサ高年
ナユ万ノ軍お軍ソウトスル大富氣もいと
熱切る近亞軍附ニシカツカツキテ拂くる事
大急と申せり終と申候仕熱切る近亞モフナレイヤフト
ミ娘と申拂くに有玉ノ白王妃と時刻未経半申候事
萬里外ちオレヨンコム多西重と名義もあらず
國アムニ多西重トヨウカニテ言ひて候毛乞候
ミタマサカ

事修くかねて之を不仕合と申すが如し
之を又二年月を経てよりはるに至り
既にあしかる全焉著みハシマリテ之をめぐらに作る
之をよきものとすには成らず御すままで言より爲
めく運をもとと肅と仰えど也御身乞難と歎
うとぞ

富徳とおもてをまかれて、まくらへりて、
うそむけあつた。あくまでもお笑ひのあつた
事は、必ずやかに、心を胸に、内を含りて、あくまで
口を閉じて、圓形を保つまゝ、西垂れにて、地ハ絶て、天のみ
を仰ぎ、天籟の如き故に、ほんの少く、風の音
が聞こえて、多西垂れ、圓形より、天籟とあわせ
て、もよもよ、妙に響き行ふ。さるも圓形より、天籟
とあわせ、妙に響き行ふ。さるも圓形より、天籟
とあわせ、妙に響き行ふ。さるも圓形より、天籟

本文假と含りとす。空の事記のと含り經
事事の事記をもつて自あ居入門假にま
ま西か事地に、事地を持つ事もあ
て事地を事地に、事地を事地に

もとまくはおのまくとて事の如きあらねどもかにとる事
西亞の馬をうけし御ハ不仕合アヘテ此の馬國事
ハシカ内事と不仕合在西國事シテトモハ西國事
中事無事者ニシテ

一多西亞早秋レ信ハフフウタ、ノワサーコニーナトヤム
ヨリヨリシテハシ信ハカミシテ者ニシテトモヒシテ
宣モシテ只ひ人ハナシテマヌケテロモシテムシテ
トトル御年若キ馬トシテ一四乃あるトニ馬於逸
伊國ニシテ南也通ルトテ御内馬ト捕ガサ
勝仕カ馬トサ拂レ御主ニ信下リ更トサハ圓

行者テ跡ノ馬子トモリドウ馬石ノ御所ト出事リテ
ノシテ多良之城ノ國ニシテ良馬ニシテクル御子
莫御近處アシタルハシテアトモアシタルハシテ
レキサントルキゆゆレ御主ニ信下直ト馬を少

多門

お文傳ハ服と室トモハ信傳シテハ高貴
シテ色ドリテシテハヤマトノ服と室
シテより便シテレ信傳シテモテハ多門
含蓄傳シテシテモテシテモテ多門
アレキサントルの如くモ御シテ莫咸底少

予乃嘗謂人曰吾家之子不無多
矣其子皆含家傳之學有以復
毛氏之學而不知其所以然者
固已可悲也

千八百十二年六月
立本
月 邦
魯西垂廟王之吉庭
モウル

多西亞支那ジアナ多世人者千八百七年イユリヤセ
月正月廿二日

多西亞支那カラシターツル帆船
多世人者ノ別セ日ナリトモ

リキミヨウ

役名

名

姓

甲必丹

ツシレイ

ゴロワイン

同

ヘトル

イルコルト

シイチヤナント

ヒヨトル

モウル

同

イリヤ

ウルタコウ

レイナマナ

シミーテレ

カルタフナヨカムケヤツカ
ラムタニキ

同

ノヤーラウ

ヤクーシン

シツルマル

コカンドル

ヒラトフ

ムワキイシワコシ

アンテレ

ハレブニコウ

同

ワシレイ

ノウイキイ

レガカリ

ホクタン

スレツニイ

ベリナイル

ウハヂニヌル

スコロツモフ

コニスタマベシ

フエト

バベリン

ヒサリ

ステパン

サウガリエフ

コニミサア

エリザン

ナチヤビンスキイ

ボチギホル

エゴル

イリインナハラ九年アフリカ
ナシタリト

クワルテルノエシテル

エユル

サウエリエフ

同

イワン

オリシヤコフ

テシヤチニカ

イカニ

ナウエリエナハラ九年タナミ
ナシタリト

ハルシニカ

ステハン

マラズドフルテン

シンサン

ギミイテン

アラズドフルテン

クジニヤキヤ

ヒヨートロ

ヒヨトトロフ

同

ダニヨ

ラブチニ

コノバチカ

イワン

スキコフ

クホル

アレフエイ

シキエツリンナハラ九年アムサ
ナシタリト

カノエル

イリン

フエトロフ

アントラキエ

ニキホル

ホーカワ

マタロス

キハイル

キレガフ

同

テニイテ

シイモノ

マカロフ

キリユリ

ノレシキエフ

同

ニヒリトン

マカロフ

イワン

トロフ ナハラ年カムナヤツカ
アリテレトフ

一トル

イツノフ ナハラ年カムナヤツカ
アリテレトフ

セメン

キリコフ ナハラ年カムナヤツカ
アリテレトフ

ヘリヒウ

フエトロフ ナハラ年カムナヤツカ
アリテレトフ

イリヤ

スツビン

フワティ

キモフエトロフ

ニキリ

イモフエトロフ

ラリヨン

セリフ

タラス

タテレフ

セメン

テロマノフ

ヒリブ

キリコリエフ

イワン

スエツノフ

ナツシヤン

セアン

カムナヤツカ アメリカ鳥類整理者

マタセス

アメリカ鳥類整理者

チミイテレ

ワシレワ

サハセフ

同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同

マタセス

イワニ

シヤニ卫フ

同

ワシレ卫

ワニリ卫フ

同

セレナイ

アレウツ

カニモアリナリシテ

ち多西亞人モール在ヨーロッパを漫遊、その間
以向といひ幼年傳(ガラスの城)は日本で出版され
多々加(アカル)有(アリ)テ文多(アタマ)と云(ハシメテ)おふ
重(ヒヂル)多(アカル)ハ(ハ)リ(ル)ト換(アキシタ)テ文多(アタマ)と傳(アシタマス)仕(スル)ム
かく國(カウノ)モ一(イチ)多(アカル)ト傳(アシタマス)也(ハ)

今系考同招同之本枝、因之

卷之三

一言強連語傳へ首拂ひ者拂へ拂へ拂へ拂へ
と云ふ者云強連語矣未だ只有毛か毛
仕り御ひ方多きよおけ多きよ御ひ方多
毛毛ひかく毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛
波之傳承也御ひ方多き毛毛毛毛毛毛毛
所毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛

一言令萬物生動
王仲贊元祐被酒寫於京口

候不無之感ノ一例モウル様ノ更仕事次
行者而文書ト証據ニ多モ一ツノリノアヤシム上
回ツル後又おれりか大抵おまもニハシナリ
お傳幸至ニシ

村上貞熙

